PDF-XChange Viewer
Click to buy NOW!
www.docu-track.com

間違っていてもいい。まず決めることが、次への一歩

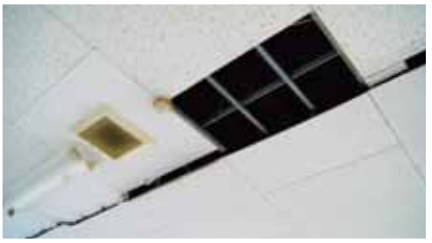
株式会社 エムジー

工場よりも、個人の生活

仙台の中心から北東方向へ車で走ること30分、株式会社エムジーは宮城郡利府町しらかし台の工業団地の中に本社工場を構えている。エンプラ成形やプラマグ成形を得意とし、自動車業界から文具業界まで幅広い分野へ製品を納めている。3月11日14時46分、通常業務を行っていたところ、突如強い揺れに襲われた。すぐに従業員全員が工場の外に避難し、地震発生から1時間もしない15時30分には解散した。地震発生から3日目の、週明けの月曜日、幹部が集まり役員会議を開いた。電気も水道もガスも止まった状態であり、なにより今後、再び大きな余震が起こらないとも限らない。また常務取締役の荒金氏は、地震発生後に自宅で過ごしていた間に、食料やガソリンなどの生活物資を確保することの大変さを痛感していた。結果、「工場の復旧よりも、まずは個人のライフサイクルを取り戻してもらう方が先」と、会社を1週間の休業とすることを役員会議で決定した。

1週間の自宅待機が明けた日。東北では食料や生活物資が大量に不足していた。なによりガソリンが不足していることを考えると、出社日とはいえ社員の半分が出勤すればよい方だろうと、荒金氏は思っていた。しかし当日、予想に反して全体の7割強の社員が集まった。限られた燃料のなか、車だけでなく燃費の良いバイクや自転車などそれぞれの手段で、100人近くの社員が出社したのだ。「そんなに愛社精神があるとは思わなかった」と当時を振り返り荒金氏は笑うが、一方で、それぞれの生活が大変ななか社員1人ひとりが「会社へ行かなくては」という気持ちを持っていたことに感心し、とても感謝していると言う。

その日はすぐに工場の復旧作業に取り掛かった。天井のパネルが落下したり、設備の位置がずれたりと多少被害はあったものの、幸い機械設備の損傷は軽微だった。地震後の休業により売り上げは一時的に落ち込んだものの、6月末には、震災前に予定していた通りの状態に戻すことができた。



地震の揺れで、天井のパネルが剥がれ落ちてしまった。

現在、節電対策のために監視モニターを設置し、リアルタイムで数値を把握している。

被災地支援

エムジーは、震災後すぐに、ＮＣネットワークが取りまとめていたエミダス会員企業からの支援物資を被害の大きい被災地域に運搬するという役割も担っていた。「被災地ではどこへ行っても物が入手できない状況だったので、物資の支援はとても喜んでもらえた。とくに、水、電池、赤ちゃん用ミルク、ガスコンロ、生理用品などが重宝した」。県や市など行政機関の職員も必死に対応していたものの、民間企業は小回りが利き、被災地では非常に感謝されたそうだ。

荒金氏は、地震が起きた後のことが重要なのだと言う。「地震が起きたときの対策はあるけれど、地震後の復旧についての指針というのはない」そのためエムジーでは、今は地震対策改善よりも復興に向けての活動の明確化を重視している。「震災対策でも何でもそうだが、ここまでやれば完璧という指標はない。もっとできる対策がないかと考えるより、ここまでやって駄目なら仕方がないというラインを決め、次の行動に移していく必要がある。間違っていても、まず決め、動くこと」と荒金氏は語る。

荒金氏は「被災地はより良くなって必ず復興する」と断言する。被災地では今後、人や物や金が動き出し、東北はかつての、あるいはそれ以上の賑わいを作り出すことができるだろう。常に先を見据え行動に移すスタンスが、エムジーの決断力と安定感の根底にある。

Company Profile

- 会社名：**株式会社 エムジー**
- 代表者：代表取締役　渡邊昌司
- 所在地：宮城県利府町しらかし台6-1-8
- TEL：022-356-5571／FAX：022-356-5508
- E-mail：webmaster@mg-japan.co.jp
- 創業：1970年1月30日
- 資本金：1億円
- 従業員：180名（パート・派遣社員含む）
- 業務内容：インサート多重成形、二色成形、プラマグ、導光板、デジカメ、携帯電話の筐体から車両部品、文房具など